

1. 基本的な使い方

L^AT_EX を利用する際に、最初に知っておくべきことは「スペース」や「改行」などが、エディタで入力したとおりにならないことと、キーボード上の記号の中には「%」など、そのまま入力しただけでは出力できない文字が有るということである*¹。これらのポイントは、電気通信大学 佐藤研究室による「TeX マニュアル」[?] にまとめられている。

以降、特に注意するポイントについてのみ記載する。

1.1. 章と節、節々

章のタイトルには `\chapter{}`、節のタイトルには `\section{}` を利用する。また、節の下レベル（ここでは節々）のタイトルを記載するには `\subsection{}` を利用する。それぞれ、適切なフォーマットにて番号が付与されて、表示がなされる。

更に下のレベルは、`subsubsection{}` を用いることができる。本スタイルパッケージでは、このレベルにおいて番号を記載しないようにした。したがって、このレベルを最小として論文を構成するようにして欲しい。

なお後述の理由から、抄録では `\chapter{}` は利用しない。

1.2. 改行と改段落

L^AT_EX では、HTML を書くときと同様に、エディタ上で「半角空白をいくつ入れたか」「改行したか」といった情報は、無視される。

改行には「`\`」を、改段落には「`\par`」を利用する*²*³。

一見不自由に見えるかもしれないが、この特性は論文を書く際に便利な機能である。まず、論文を書く際に、意図的な改行を入れることはあまりない。つまり改行の「`\`」を使うことは、ほとんど無い。

逆に改段落は、論文を書く際には意識して頻繁に利用する。ここで、段落が変わる位置に空白行を挿入すると、「`\par`」と入力したことと同じ意味となる。

テキストエディタなどで文章を書く際のポイントと効果を以下にまとめる。

- 一文ずつエンターキーで改行しながら文章を記載

する

- ・ 行が繋がっていない方が、エディタ上の編集では効率的である
- ・ エンターキーによる改行は、文章の見た目の改行ではない
- 段落が変わる毎に空白行を挿入する
 - ・ エディタ画面では、段落のまとまりがわかりやすい
 - ・ 文章のバランスや量などに気を配ることができる

ちなみにどうしてもスペースを空けたい場合には、`\~` を利用する。

*¹ ちなみに % 記号を表示したい場合は、「`\%`」と入力する

*² 改段落の場合には「`\par`」を入れるのではなく、空白行を入れる方法を推奨するが、説明として記載している

*³ 改段落された後の段落は、自動的に一字下げされる。一方で改行の場合には、字下げはなされない。